

次号
特集

コマネジメント

内科の医師でこそ、「コマネジメント」の存在を知っている人は少しずつ増加傾向にあるかもしれませんが、日本国内では実際にコマネジメントを実践している医療機関は限られ、その有用性もあまり知られていないと思います。本特集が、全国の病棟診療医にコマネジメントの認知を広げ、その有用性を実感いただける機会となり、これを読んですぐに実践につなげていただけるようなものになればと思います。

前半の総論では、まずそもそもコマネジメントとは何なのか、またその存在意義を示すために、背景となるエビデンスを解説いただきます。それに続き、日本での実践例もご紹介し、日本でも導入可能であることを示したいと思います。

後半の各論では、実践への移行のために必要とされる主な知識やスキルを解説いただければと考えています。対象となる患者は高齢者が多くなると思われ、老年医学の5M (Mobility, Mind, Medication, Multicomplexity, Matters Most) を意識した構成となっています。また、この機会に、内科医の視点だけでなく、コマネジメントにかかわる他科、他職種の視点を織り交ぜてより深い学びができるような構成としました。

Part 1 総論

- 第1章 コマネジメントとは何か?
- 第2章 なぜコマネジメントが必要なのか、そのエビデンス
- 第3章 日本におけるコマネジメント

Part 2 各論

- 第4章 服薬管理: Medication management
- 第5章 ケアのゴール設定: Goals of care
 - 【コラム1】コマネジメントをする内科医に知ってほしい: 整形外科手術
 - 【コラム2】コマネジメントをする内科医に知ってほしい: 開腹手術
- 第6章 Frailtyの評価と臨床での活用
- 第7章 術前心評価
- 第8章 術前肺評価
- 第9章 周術期抗凝固
 - 【コラム3】コマネジメントをする内科医に知ってほしい: 麻酔管理と術後の注意点
 - 【コラム4】コマネジメントをする内科医に知ってほしい: 周術期のデバイス管理: ペースメーカ、ICDなど
- 第10章 せん妄
- 第11章 DVT予防
- 第12章 転倒患者の評価と予防
- 第13章 ケアの移行: Transition of care
 - 【コラム5】コマネジメントをする内科医に知ってほしい: 術後リハビリテーション
 - 【コラム6】コマネジメントをする内科医に知ってほしい: 術後の嚥下機能評価
 - 【コラム7】コマネジメントをする内科医に知ってほしい: 術後の退院先

※誌面の都合により、内容が変わることがあります。

- Vol.1 (2013年)
 - No.1 ホスピタリスト宣言
 - No.2 感染症
- Vol.2 (2014年)
 - No.1 腎疾患
 - No.2 膠原病
 - No.3 消化管疾患
 - No.4 緩和ケア
- Vol.3 (2015年)
 - No.1 呼吸器疾患1
 - No.2 外来における予防医療
 - No.3 循環器疾患1
 - No.4 血液疾患
- Vol.4 (2016年)
 - No.1 代謝内分泌
 - No.2 周術期マネジメント
 - No.3 腫瘍
 - No.4 他科の知識1
- Vol.5 (2017年)
 - No.1 神経内科
 - No.2 呼吸器疾患2
 - No.3 感染症2
 - No.4 老年科
- Vol.6 (2018年)
 - No.1 腎疾患2
 - No.2 糖尿病
- No.3 肝胆脾
- No.4 心不全
- Vol.7 (2019年)
 - No.1 外来マネジメント
 - No.2 総合内科のための集中治療
 - No.3 抗血小板薬、抗凝固薬のすべて
 - No.4 内科エマーゲンシー
- Vol.8 (2020年)
 - No.1 アレルギー
 - No.2 画像診断①胸部・縦隔編
 - No.3 手技
 - No.4 病棟管理
- Vol.9 (2021年)
 - No.1 膠原病2
 - No.2 内分泌疾患2
 - No.3 不整脈1
 - No.4 不整脈2
- Vol.10 (2022年)
 - No.1 身体診察
 - No.2 脳梗塞
 - No.3 画像診断②脳脊髄編
 - No.4 感染症3
- Vol.11 (2023年)
 - No.1 コマネジメント
 - No.2 総合内科のための透析診療

▶本誌では、ホスピタリストの総論となる創刊号に続き、実質的な最初の各論特集が「感染症」でした。それから4年後の「感染症2」では、取り上げられる機会が増えたなかで、マニュアルでもなく分厚い本でもない、毎日の診療がもう一段階レベルアップするような感染症の実際の知識を意識しました (QR1)。新たな転換点となるこの数年間を経た「感染症3」は、ひとまわりたくましく、感染症の世界をより近づけてくれるはずです。▶おかげさまで大好評の『循環器のトビラ』ですが、そのオンラインイベントのアーカイブ動画をご紹介します (QR2)。「素朴な疑問」と題し、循環器に興味をおもちのすべての方におすすめできる内容となっています。盛りだくさんでカットできませんでした。たっぷりお楽しみください。

QR1



QR2



● 広告 医学書院…672, 761 南江堂…574
一覽 金原出版…701 日本医事新報…614

Vol.10 No.4 (第38号) 2023年6月1日発行

Hospitalist

(1部) 定価: 本体4,600円+税

ISBN 978-4-8157-2024-7

発行者 金子 浩平

発行所 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
電話: 編集部 03-5804-6056 FAX: 編集部 03-5804-6054
販売部 03-5804-6051 販売部 03-5804-6055
URL: <http://www.medsico.jp> Eメール: hospitalist@medsico.jp
振替: 東京 7-28572

印刷所 横山印刷株式会社 電話03-3622-6161

広告取扱 メディカルブレーション 電話03-3814-5980

文京メディカル 電話03-3817-8036

本誌の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は (株)メディカル・サイエンス・インターナショナルが保有します。本書を無断で複製する行為 (複写, スキャン, デジタルデータ化など) は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学, 病院, 診療所, 企業などにおいて、業務上使用する目的 (診療, 研究活動を含む) で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【JCOPY】<出版者著作権管理機構 委託出版物> 本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。